# 絵師　葛飾北斎の逸話

大和田囲碁同好会　原田朋栄

囲碁仲間で、ひょんな事から、同好会会員の田口勇氏から奥様の遺品の画集を戴き、小生の絵の興味をより掻き出させて戴く事になりました。北斎は、６歳から絵を描くことが好きで 1849 年に江戸にて没する 90 歳まで、描き続けました。その偉業は後世の知るところですが、若い時は謎に包まれており幾重も画号（30 以上）を変え、引っ越したり、淋派等・法華宗の俵屋宗達・尾形光琳へ弟子入りし画風をも変え、思想は法華宗（日蓮）の信奉者でもありました。

ところで、私は独学で絵を描くことが好きなだけで、退職後は暇に任せ、気の向くまま水彩画を始めた訳です。そんな訳で、興味に任せ描いた中から、この度３枚ほど葛飾北斎の画集から、自分流に描いてみましたのでご笑覧ください。北斉は、70 歳を過ぎてから富嶽三十六景を描き、評判が良く売れたので 10 景を追加、四十六景となり、その後、絵本の編纂にも着手多くの編纂を手掛け、生涯かけて、富嶽百景となります。

その中から図 1「江戸日本橋」をご覧ください。日本橋は 1603 年に家康の時代に架けられ、11 代将軍（家斉：1787～1837 年）の時代に、老中松平定信の元、文芸の成熟期で、特に江戸で最もにぎやかな場所で行き交う人々を描きます。遠くに江戸城の２櫓（やぐら）を描き、平和な日本の代表である富士山を望むことで、江戸の賑わいを醸（かも）し出しています。この頃は、庶民的富士信仰が広まっていたので絵は良く売れます。

**図１　　江戸日本橋**

図２「本所立川」の作品ですが、大川（隅田川）に注ぐ竪川（たてかわ）をはさんで、右に本所相生町、左に千歳町の惣録屋敷、木材置き場があり、北斎の生まれ育った所です。現在の東京スカイツリーの近くから見た富士です。

**図２　本所立川**

図３「神奈川沖浪裏」（天保 1～3 年：1830～32 年頃）は富嶽三十六景の屈指の名作であり、フランスの音楽家ドビュッシーは、この絵にヒントを得て交響詩「海」を作曲し、更に、楽譜の表紙をこの大波でデザインしたため、広く世界に富士山が知られることになります。1.2.3 絵図を下記に載せてみました。機会あれば、続編をお楽しみください。

**図３　神奈川沖浪裏**

*参考書（平凡社：世界名画集。博雅堂：北斎の富士。第三文明社：法華宗の芸術、高橋伸城）から引用

2023 年 6 月 1 日